

2017年 秋
福島を感じて考えるスタディツアー
「スタ☆ふく」#東和パシヤリツアー2017
～田舎こそフォトジェニック。～

活動報告書

2017年 10月

企画:スタ☆ふくプロジェクト



助成:「ふくしま未来基金」まちづくり草の根助成—2017年度

目次

1. はじめに-----
2. 企画背景-----
3. 企画趣旨・目的-----
4. 団体概要-----
5. ツアー詳細-----
 - ① 概要-----
 - ② 行程-----
 - ③ 本ツアーの価値・評価-----
 - ④ 企画担当者の声-----
6. 広報・メディア掲載について-----
7. ご協力いただいた方々-----
8. 総括-----
9. お問い合わせ先-----

1. はじめに

弊団体の活動も 2012 年 4 月から始まり、6 年目となりました。福島のことを知ってもらおうと企画した『スタ☆ふく』のツアーは今回で 19 回目となります。本ツアー「#東和パシヤリツアー～田舎こそフォトジェニック。～」は、4 名のお申し込みをいただき無事にツアーを実施することができました。東和地域でのツアー催行は今回で 7 回目となりましたが、これも多くの方々のお力添えあってのことです。ご協力いただいた方々への感謝の意を含め、また、スタ☆ふくプロジェクトを知らない方にも、私たちの活動を知っていただき、福島のことを知ることになっていただきたいと思います。本報告書を作成しました。この報告書を通して、少しでも私たちの活動や福島を知っていただけたら幸いです。



(1 日目 道の駅ふくしま東和 お菓子作りプログラム終了後)

2. 企画背景

「福島の実状を実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」という活動理念から、2012年4月 JASP (Japan All Student Project) という団体の1プロジェクトとして発足し、その後福島を感じて考えるスタディツアーを作るため発足したのが「スタ☆ふくプロジェクト」でした。これまで、いわき市・二本松市・会津若松市などの県内7カ所で計18回、ツアーを実施してきました。地域の人々との交流を中心としたプログラムを通して、福島のありのままの現状を見てもらい、その地域ごとに課題に向き合う人々の声を発信していくことで、風評被害の払拭や福島への関心を生み出すことで、震災からの復興や地域活性化の一助となるためのツアーの企画をしています。多くの方から「今後もツアーを企画してほしい」と、応援のお声をいただいております。企画者である私たち団体が一番に「福島」を学び、「福島」から学び、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興」について、福島県や各地域の「未来」について考え、関わり続け、地域と参加者をつなぐ架け橋になるよう、今後も継続的に活動していきたいと考えております。

今回の「東和パシャリツアー2017」は、福島県二本松市東和地区にて行われました。東和地区でのツアーは今回で7度目の開催となります。前回のツアーで東和の方々から、スタ☆ふくにもっと継続的に関わってほしい、東和に訪れる若者や女性を増やしたい、地域を活気づけたいとの声をいただいていた。そこから、これまで5年間東和に関わってきた大学生として、もっと若者を呼び込めるようなツアーを企画するに至りました。

若者を東和地域へもっと呼び込むための内容を考えた結果、SNSで東和の魅力を発信することで東和のことを知ってもらうきっかけを作ろうと考えました。そのため、今回のツアーでは東和の祭り、人、自然などを、ツアーに参加した若者がインスタグラムを中心としたSNSを使って発信することにより、東和に興味を持ち、東和を訪れる若者の数を増やすことを目指しました。

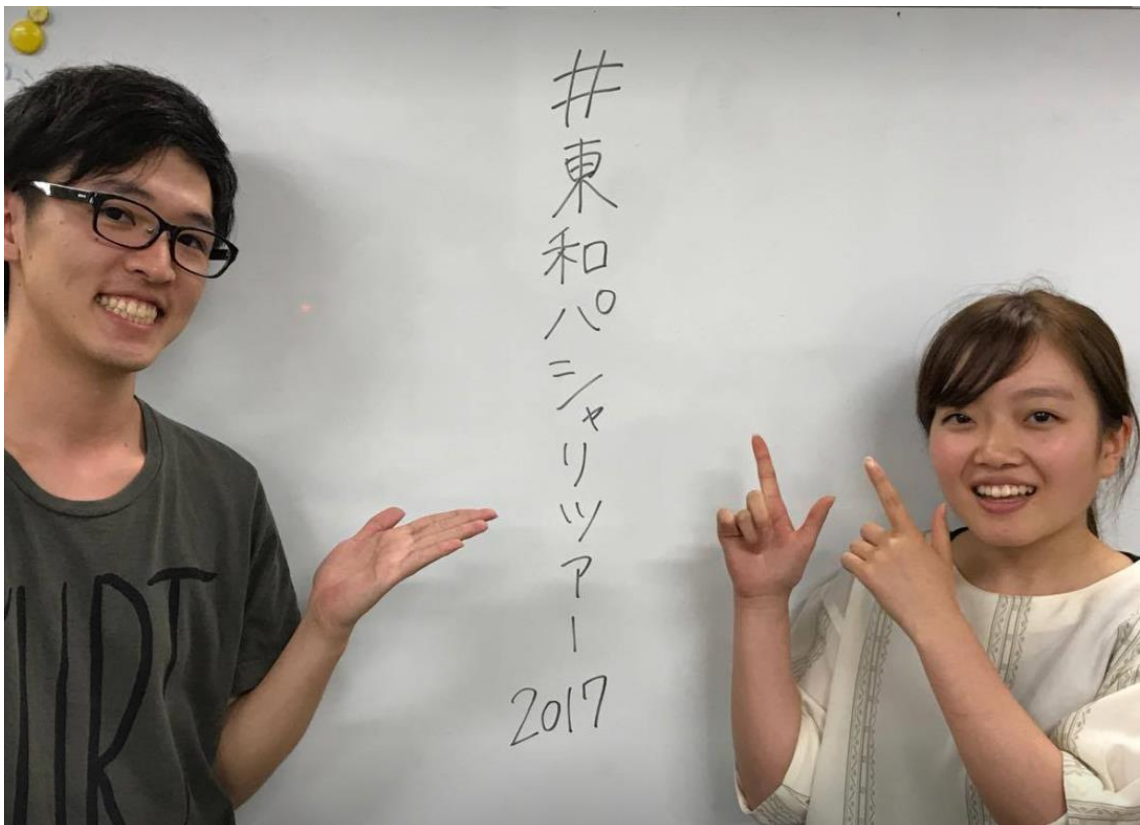
3. 企画趣旨・目的

二本松市東和地区は地域を盛り上げようと自発的に活動を続ける可能性に満ちた地域です。

今回の「#東和パシャリツアー2017」の企画にあたり、地域の連携やその取り組みを知ることを通して、東和の方々の想いや東和という地域の特性、温かさ、活発さを感じていただきたいとの思いで企画を進めてきました。美しい自然の風景も美味しい野菜も豪快で盛り上がりを見せるお祭りもすべて東和の方々の愛で守ってきたものです。私たちが取り上げた東和の一面から東和の様々な面を感じ取り、切り開いていってほしいという思いを込め、馬洗川溪流、桑パウダー、針道のあばれ山車などを内容に盛り込みました。

<企画目的>

- ・若者を東和に呼び込み、継続して東和に関わり続ける。参加者それぞれが東和の魅力を発見し、興味を持ち、また来るきっかけとする。
- ・参加者が東和の暮らしや取り組みを知り、自分の周りの人に伝えたいと思う。



3. 団体概要

『スタ☆ふくプロジェクト』は2013年4月に母体団体であった『全国学生プロジェクト (JASP)』から分離独立しました。JASPは東日本大震災をきっかけに全国の学生がつながり、若者の無限の可能性を発信することを目的に福島大学の学生が発起人となり2011年10に設置されました。その後のべ1000人が参加した2012年3月10、11タスキリレーや福島市内の街中広場で行われ、のべ1万3千人を動員した鎮魂イベント「JASP in FUKUSHIMA」などの成功を収めました。

このイベントを一過性の物とせず、被災地に学生自らが出向きリアルな福島を五感で感じること、震災に対する自分たちの立場や考え方を明確にすることを目的に、2012 夏季(8月～9月)に福島を五感で感じる旅行「福島スタディツアー」を企画・実施しました。

その後、『スタ☆ふくプロジェクト』は2013年4月に「福島を五感で感じて考えるスタディツアー」を主な事業として活動する団体としてJASPから独立しました。

それ以降、原発事故による風評被害の払拭だけでなく、ツアー参加者と地域住民との交流継続のきっかけとなることやツアーを通したまちづくり・地域おこしの地域住民の主体的な参加を目的として福島県会津若松市やいわき市、二本松市などで体験型のツアーを計19回実施しました。現在、福島大学の学生14名で活動しています。

【団体ビジョン】

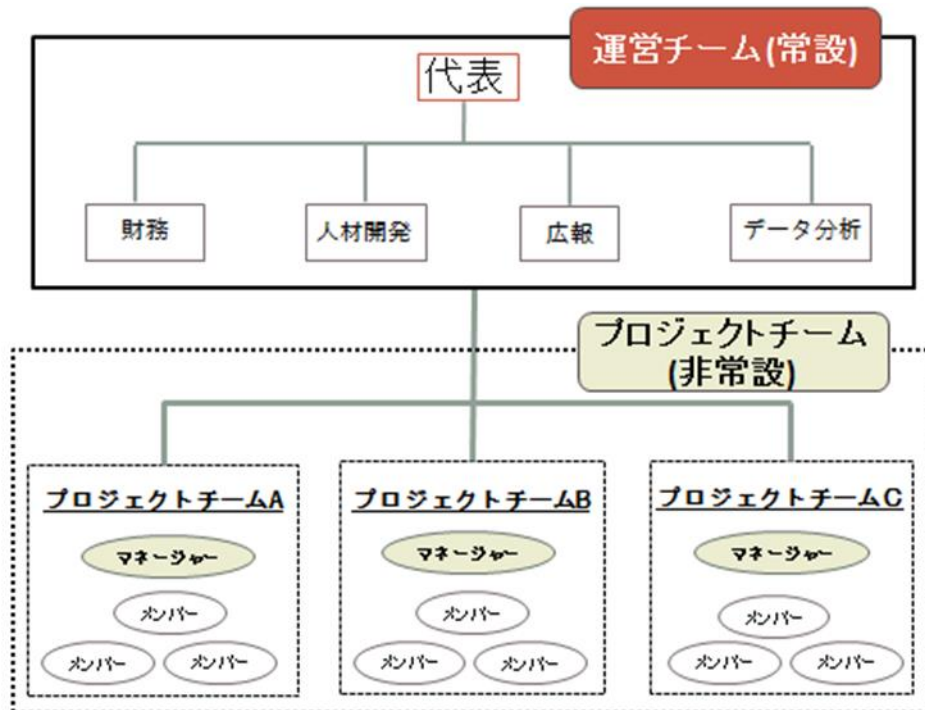
「先進的な地域活性化モデルとしての福島」の実現

【受賞歴】

2013年6月 観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

今しかできない旅がある
若林

【組織図】



【構成メンバー (2017年10月8日現在)】

～運営チーム～

代表	菊地実咲	人間発達文化学類	3年
人材開発	伊藤如晏	経済経営学類	3年
広報	菅野ゆう	行政政策学類	3年
データ分析	安齋瑞希	人間発達文化学類	3年
財務	国分朋美	人間発達文化学類	2年

～活動メンバー～

平澤和也	経済経営学類 4年	椎名紬	経済経営学類 2年
遠藤圭一郎	経済経営学類 3年	古屋優衣	人間発達文化学類 2年
宝槻亮汰	行政政策学類 3年	松塚大輝	共生システム理工学類 1年
宍戸孔哉	人間発達文化学類 3年	鈴木美紗	行政政策学類 1年
星川美帆	現代教養コース 3年		

プロジェクト開始：2012年4月

団体発足：2013年4月

【過去のスタディツアー】

2012年8月	「スタ☆ふく 水産・漁業ツアー」	いわき市	(32名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 観光業ツアー」	喜多方市	(27名動員)
2012年9月	「スタ☆ふく 農業ツアー」	二本松市	(25名動員)
2012年12月	「スタ☆ふく 冬の二本松ツアー」	二本松市	(18名動員)
2013年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(37名動員)
2013年9月	「スタ☆ふく まちづくりツアー」	二本松市	(33名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (子ども)」	郡山市	(15名動員)
2013年11月	「スタ☆ふく ふくしま若者ツアー (食)」	福島市	(12名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 霊山町子どもツアー」	伊達市	(20名動員)
2014年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(32名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町	(19名動員)
2015年2月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市	(13名動員)
2015年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(40名動員)
2015年9月	「スタ☆ふく 東和農業ツアー」	二本松市	(15名動員)
2016年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町・喜多方市	(20名動員)
2016年8月	「スタ☆ふく 水産漁業ツアー」	いわき市	(29名動員)
2016年9月	「スタ☆ふく 東和田舎暮らしツアー」	二本松市	(12名動員)
2017年2月	「スタ☆ふく 会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町	(14名動員)

【団体連絡先】

〒960-1296 福島県福島市金谷川1 福島大学学生課 「スタ☆ふくプロジェクト」

Mail : suta.fuku@gmail.com

4. ツアー詳細

①概要

〈タイトル〉

#東和パシヤリツアー2017 ～田舎こそフォトジェニック。～

〈実施日〉

2017年10月7日(土)～10月8日(日)【1泊2日】

〈実施場所〉

二本松市東和地区

〈参加者数〉

一般：4名

スタッフ：4名

〈一般参加者属性〉

学生 女性 県内出身

学生 男性 県内出身

社会人 女性 県内出身

社会人 女性 県外出身

〈参加スタッフ〉

安齋瑞希(福島大学3年)

古屋優衣(福島大学2年)

菊地実咲(福島大学3年)



椎名紬(福島大学2年)

〈一般参加料金〉

9,300円

②行程

時間	コンテンツ	記録
10:30	二本松駅集合	雨の中電車でいらっしゃった参加者のみなさんを迎え、出発です。
11:20 ～11:50	馬洗川溪流の説明	道の駅駅長である武藤長衛さんから馬洗川溪流の由来や逸話、現在抱えている課題をお話いただきました。その後八畳岩の上に降り、記念写真撮りました。 
12:10 ～13:30	道の駅で昼食	武藤長衛さんも交え、二本松地域おこし協力隊の樋口陽子さんのフレンチ料理をいただきました。東和の新鮮野菜を使ったメニューが並び、皆さんとても美味しそうにいただいていた。ここで改めて自己紹介をしました。 


<p>13:40 ～14:30</p>	<p>東和特産桑の葉パウダーを使ったお菓子づくり</p>	<p>昼食に引き続き、樋口さんのご指導のもと、桑の葉を使ったババロアとイチジクの甘煮作りをしました。「どうしてこういった注意が必要なのか。」など、細やかにご説明いただき、大変勉強になりました。</p> 
<p>14:50 ～16:00</p>	<p>季の子工房飛び入り訪問</p>	<p>道の駅でお会いした季の子工房の武藤一夫さんから工房見学を快諾していただき、急遽見学させていただきました。飛び入りでしたが、工房の説明だけでなく、なめこの収穫もさせていただきました。</p> 

<p>17:00 ～18:00</p>	<p>針道のあばれ山車 関係者の方々との 座談会</p>	<p>あばれ山車関係者である、服部嘉夫さんと町若連の川口義広さん宗形幸栄さんをお招きしました。あばれ山車発祥に関するお話や、現在の若連の事情などをお聞きしました。参加者の方々から質問の声も多く上がり、にぎやかな会となりました。</p> 
<p>19:45</p>	<p>民宿で夕食</p>	<p>民宿のご主人が作られたという裏部屋で、囲炉裏を囲みながら奥さんの手料理をいただきました。昔からの東和の姿や山との共生についてなど、興味深いお話も聞けました。また季の子工房で収穫した「なめこ」も豚汁の中に入れて東和の食材を満喫しました。</p> 

<p>6:30</p>	<p>朝食</p>	<p>朝からたくさんの料理をいただいた上に、おにぎりもお土産にいただきました。また、民宿のお母さんがお孫さんを紹介してくださり、とても和やかな雰囲気になりました。</p> 
<p>7:30～</p>	<p>野菜苗植え・収穫体験</p>	<p>日の光に照らされた色鮮やかな野菜に囲まれ、朝からすがすがしい気分になりました。</p> 

<p>～9:30</p>	<p>ウッディハウスと うわで ネイチャーゲーム</p>	<p>1日目に行くはずであったネイチャーゲームをここで行いました。参加者の皆さんは「いつも気にも止めない音には沢山の自然の音があり、聴き入るだけでこんなにもリラックスできるのか」と驚きの声を上げられていました。</p>  
<p>9:30 ～10:50</p>	<p>バーベキュー準備</p>	<p>道の駅で購入した東和の野菜を使って、BBQの準備をみんなで行いました。単に焼くだけでなく、ホイル焼きやサラダにしてみるなど工夫を凝らして楽しみました。</p>
<p>11:00 ～12:20</p>	<p>バーベキュー</p>	<p>手分けして食材を焼き、美味しくいただきました。食材の量が多かったため「これでもか!」とお腹が破裂しそうになるまで食べました。お腹が苦しくなっても東和の野菜は美味しく感じられたのがとても印象的でした。</p>

		
<p>12:30 ～13:00</p>	<p>針道のあばれ山車 町廻り見学</p>	<p>山車がぶつかる前の町廻りで今回の山車を見学しました。人がたくさんいる中での山車は前日とはまた違ったように見えるそのような感想も参加者の方から聞こえました。</p>
<p>13:30 ～15:00</p>	<p>針道のあばれ山車</p>	<p>いよいよ山車がぶつかるのを、間近で見ることができました。細い道で器用に山車を扱う様子や、ぶつかりあう様子は圧巻でした。参加者の皆さんも興奮を隠せない様子で、夢中でカメラのシャッターを切っていました。</p> 
<p>15:30 ～15:50</p>	<p>お土産購入</p>	<p>道の駅で自宅やご友人に向けたお土産を皆さん購入されていました。やはり野菜がとても美味しかったこともあり、野菜を手にする方が多かったように思います。</p>

<p>16:00 ～16:40</p>	<p>振り返り・まとめ のワークショップ</p>	<p>スライドショーで振り返りをした後、それぞれが選んだお気に入りの写真をもとに、この2日間の思い出を共有しました。それぞれ一番印象的だった場面は異なっており、それぞれの場面でお楽しみいただけたことを感じました。</p> 
<p>17:40</p>	<p>解散</p>	<p>二本松駅で皆さんを見送りました。満足げな顔と別れる寂しさが混在した表情が見られ、2日間の充実度を感じました。</p>

ツアーの価値・評価（2017年10月17日ツアー反省会より）

今回のツアー企画で成し遂げられたこと、成し遂げられなかったこと、今後に生かす反省点など、参加者や地域関係者などの視点も踏まえて考察しました。

●本ツアーで成し遂げられたこと

(1)参加者にとって

- ・東和の新しい魅力を発見することができた。（祭り、民宿、つながり、）
- ・小規模ツアーならではの楽しみ方ができた
- ・東和のお祭りを通じて地域の人々の想いを汲み取ることができた。
- ・少人数、小規模のツアーということで、地域の方々、スタ☆ふくの学生との交流の機会を多く持てた。
- ・スタ☆ふくの学生と楽しみを共有したり、地域の方々に気軽に質問したりできる環境にあったため、東和への興味を広げられた。
- ・パシャリツアーということで東和の色々な魅力を写真として残すことができた。

(2)地域にとって

- ・地域のファンを獲得することができた。
- ・自分の活動、想いを発信できた。
- ・新しい人々に地域の存在を知ってもらった。

●今後の東和との関わり方について

地域にこれからも積極的・継続的に関わり続ける。東和では地域の方が主体となって開催しているイベントなどが数多く存在する。そのようなイベントなどに参加することで、私たち自身がより東和を知る。また、東和のイベントなどの情報を発信し続けることでも継続的に関わり続けるようにする。

③企画担当者の声

私自身が県外出身ということもあり、スタ☆ふくに入る前まで「東和」という地名自体聞いたことがありませんでした。そんな私が東和ツアーの企画に携わりたいと思ったきっかけは先輩方の存在でした。過去 7 回の東和ツアーを経て団体内には東和のファンがたくさんいました。先輩方から聞く東和はとても魅力的なもので、すぐにこの企画に携わりたいと手を挙げたものです。それから私は何度も東和へ足を運び、身を持って東和の温かさを感じた私は、いつしか自分自身が東和のファンになっていました。そして、「実際に足を運ぶことの大切さ」を再認識した同時に、スタ☆ふくの東和ファンが示すよう、「行けば誰でも東和が好きになる」と確信しました。

約 4 か月の企画期間を経て、迎えたツアー当日。1 つ 1 つを振り返ってみると至る所に反省点が見受けられますが、参加者の方々の熱心に話を聞き質問を投げかける姿、身を乗り出してカメラのシャッターを切る姿、東和の野菜をお土産に買って帰る姿などが見受けられ、私たちが伝えなかったことを参加者の方々が感じ取ってくれていたことが企画者側としてとても嬉しかったです。

また、地域の方々から「来年も来てね」という声が多く聞かれたことも今後の活動の大きな原動力になりました。以前からスタ☆ふくはツアーという形以外でもっと地域に関わることができるのではないかと考えてきており、このツアー終了後、まずは東和から始めてみてはどうかという声が団体内から聞かれました。東和という地域は、東和に愛と誇りをもって活発に活動続ける人々であふれており、可能性がたくさん詰まった地域です。今後の取り組みについても模索しながら、これからも東和に想いを寄せ続けていきたいと思います。

最後に、このツアーが開催できましたのも、スタ☆ふくをご理解いただき、企画にご協力いただいた地域の皆様、参加いただいた参加者の皆さま、多くの方のご支援のおかげでございます。この場をお借りして、御礼申し上げます。

東和パシヤリツアー2017 企画担当
福島大学 2 年 古屋優衣

5. 広報・メディア掲載

<宣伝方法・経緯>

8月27日(日)	募集開始
9月22日(金)	募集締め切り

○スタ☆ふくプロジェクトホームページ (<http://sutahuku.jimdo.com/>)

○Facebook ページ

- ・ ツアーのコンテンツや地域関係者の紹介などのツアー告知
- ・ イベントページの作成

○Twitter アカウント (@Study_Fukushima)

- ・ ツアー準備の進捗状況を発信

○テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼

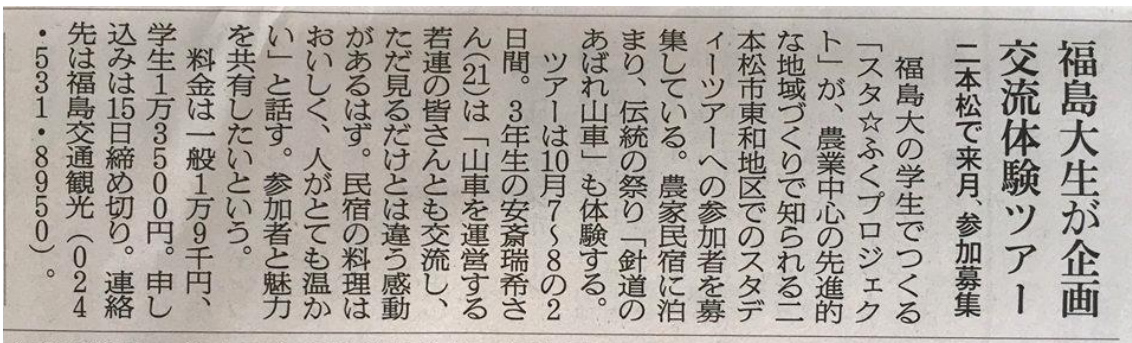
○告知協力をお願い

- ・ 各大学のボランティアサークル、学生団体
- ・ 写真サークルや伝統文化に関連する団体

<メディア掲載履歴>

○新聞

- ・ 9月9日(土) 朝日新聞



福島大の学生で
つくる「スタ☆ふ
く」は10月7、8
の両日、二本松市
東和地区を巡るス
タディーツアー
「#東和パシャリ
ツアー」を行います。
広報を担当する
行政政策学類3
年の菅野ゆうさん
(20)は「地域の皆
さんと交流し、東
和の魅力を感じて
みませんか」とP
Rしています。

来月7、8日 福大生企画

**東和の魅力
ツアーで体感**



初日は馬洗川溪流の散策、秋のお菓子作り
などを楽しみ、針道のあばれ山車の関係者か
ら話を聞きます。民宿に泊まり、2日目は農
作物の収穫や昼食作りを体験。針道のあばれ
山車を見学し、山車を引く体験をしてワーク
ショップで感想などを発表します。

学生や子どもの先着11人を
対象に500円の割引があ
ります。早めの予約を。

(024)531-8950
(福島交通観光)

メロ

▶ 集合場所＝JR郡山駅(郡山
市)、JR二本松駅(二本松市)
▶ 定員＝20人
▶ 参加費＝一般1万9000円、学
生1万3500円(児童・生徒も参加できる)

6. ご協力いただいた方々

- ・ NPO 法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
武藤長衛様 武藤正敏様 熊谷千恵子様
- ・ 二本松市地域おこし協力隊 樋口陽子様
- ・ 針道のあばれ山車関係者の皆様
針道のあばれ山車元実行委員長 服部嘉夫様
連合会 会長 宗形幸栄様
町若連総務 川口善広様
- ・ あぶくま農と暮らし塾 引地知子様
- ・ 季の子工房 武藤一夫様

8. 総括

2012年4月にプロジェクトが発足したスタ☆ふくプロジェクトのメイン事業であるスタディツアーも今回で19回目となりました。二本松市東和地区にて開催するツアーとしては7回目です。これは、同地域にて開催するツアーとしては過去最多の回数となります。このようにツアーの回数を重ねられているのも、各地域の関係者の皆様をはじめとする多くの方々のご理解とご協力をいただいているおかげです。この場を借りて御礼申し上げます。

今回のツアーは「東和を訪れる若者を増やしたい」との思いのもと企画が始まりました。昨年度の企画中でも聞かれていた、「若者に来てほしい」「学生に継続的に関わってほしい」という東和地区の関係者の声が、今年度の地域リサーチでも聞かれたためです。これまでの活動の改善点として挙げられていた活動の継続性と合わせて、参加者が継続的に地域と関わること、自分たちが継続的に地域と関わることで「東和を訪れる若者を増やす」ことを企画のゴールとしました。

結論から言うと、本企画はゴールにたどり着いていません。原因は2つあります。

一つは、企画実施の当日に若者を連れていけなかったことです。「東和を訪れる若者を増やす」ために本企画では、東和に足を運んでもらい直接魅力を感じてもらおうことと、ソーシャルネットワーキングサービス（以下 SNS）等を利用して東和の存在を発信してもらうことをねらいとしていました。しかし実際には、企画に参加してくださった4名のうち半数が20代、もう半数が50~60代となりました。ターゲットを集めることができなかった要因としては、企画準備が想定以上に手間取り集客期間が短くなってしまったこと、団体としてSNSの利用がうまくできていないこと等が挙げられます。多くの地域の関係者の皆様の期待にそぐわない結果となってしまったことを誠に申し訳なく思っております。今回このような結果となってしまった原因を改善し、すでにスタートしている次企画ではこのようなことが起こらぬよう努力していく所存です。

二つ目の原因として、自分たち自身が SNS 等をうまく利用できていないことが挙げられます。先述しました通り、本企画のゴールにたどり着くために、SNS 等を利用して東和の存在を発信することを、一つの手段として挙げていました。しかし、本企画が始動する前から、本団体自身の SNS での発信力が弱いことや、本団体のメンバーも普段からあまり SNS を利用していないことを課題として抱えていました。そのような状況の中始まった本企画は、なおのことこの現状を突き付けられる事態となりました。本企画中で改善することができれば良かったものの、それを改善しきることはできませんでした。今後の課題として、改善できるよう向き合っていきます。

さて、課題が多く見つかった本企画ではありましたが、様々な学びもありました。

今年度、初めて本団体に協力してくださる地域の関係者の方々が多くいらっしゃいまし

た。昨年度までの企画では農業従事者かつ 40 代以上の方が多かったものの、本企画では 20~30 代の方々をはじめとする若い方と繋がることができました。

また、新しくできたつながりから、これまで知らなかったり知っていても訪れることができないでいたりした地域の名所に足を運び、新たな魅力を発見することもできました。東和でしか見ることのできない景色をより多くの方に発信していくことで、これまでアプローチすることのできなかつた層にも東和の魅力を押し出していくことができると思います。

地域の関係者の皆様の知っている魅力や考え方を共有できたことで、本企画を充実させることができました。改めて感謝申し上げます。

現時点では、ゴールにたどり着くための準備と対策が足りていません。今後、本企画のゴールにたどり着くことのできるよう体制を整え、再スタートを切ることのできるよう邁進してまいります。

震災からもうすぐ 7 年が経とうとしています。福島現状は 2011 年当時のそれとは異なっています。「福島」と一言で言ってしまうそうですが、変えたくても変えられない、変わりたくても変われないものもあります。福島の様々な地域の皆様と関わっているスタッフふくみからできることを模索し、真摯な態度でいること、チャレンジ精神を持つことを忘れず、これからも活動していきます。

最後になりましたが、本企画でご協力いただいた地域の皆様、様々な形でご支援いただいた皆様、そして福島や本団体の活動を応援して下さるすべての方々に感謝申し上げます。今後とも、ご支援いただけましたら幸いです。

2017 年 11 月
代表 菊地実咲

8. お問い合わせ先



編集

安齋瑞希 古屋優衣 菊地実咲
椎名紬 菅野ゆう 鈴木美紗

スタ☆ふくプロジェクト

代表：菊地実咲

住所：福島県福島市金谷川1
福島大学学生課
スタ☆ふくプロジェクト宛

Mail: suta.fuku@gmail.com

HP: <http://sutahuku.jimdo.com/>

ブログ: <http://ameblo.jp/sutafuku/>